
斜陽

敬愛

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

斜陽

【Nコード】

N2131S

【作者名】

敬愛

【あらすじ】

斜陽は直治の遺書だけでも一つの作品くらいの価値がある。

HUMAN LOSTにも同じ事が言えるね。

「ねえお母さん自殺って何？」

お母さんはびっくりして青ざめてしまいました。

聞くと幼稚園で自殺ごっこというのが流行っているそうなのです。

それはある心無い先生が始めた遊びで

「日本には年間三万人の自殺者がいます。その人達の気持ちが分かるように遺書を書く練習をしましょう。」と言ったのだそうです。

「私も書いたよ。遺書。」

それはこんな詩みたいなのでも幼稚園児が書けるものではありませんでした。

私にはゆめがありません。ゆめってというのがわかりません。ねているときのゆめはとても

たのしくねているときのゆめのなかでくらしたいくらいです。いきることってすごきたくない。だってほかのいきものをたべるためにころしてへいぜんとしている。あそびやくじょ

とかでころす。ひととひとだっておなじようなものです。

わたしにはすきなひとがいません。すきっていうきもちがわかりません。おとうさんはすきです。でも恋じゃありません。おとうさんとけっこんしたいとおもったことがありました。

するとしんせきのおばさんがおとうさんとけっこんするとくるくる

ぱーのこどもが生まれるよ。といいました。わたしはくるくるぱーなんてことはそれこそしぬまでできたくありませんでした。そのときそのおばさんしんでしまえばいいのになんてひどいかんがえがかびました。それはつみなことだとおもいました。なんとなくむねがくるしくなっていけるのがつらくなってきたてきてそしてひとはうつくしいはなばたけをみるにつけ綺麗だねなどと言いながら

手折ってかざる、それがこうしようなしゆみだとおもっているとおもいます。ひとはすべてがいやになったときしぬんだとおもいます。

じゆみよう？わたしは生まれきてまだごねんです。でもおとながうそつきなのはしっています。だっていまてんにめされるかもしれないおとしよりをひとところにあつめて「おとしよりのがっこうだ」なんていつています。わたしはおそろしくてなりません。しんだほう

まじだなとおもいます。しゅうまく……。

お父さんが帰ってきました。

「あなたちよつとこの子が……」

「そうか遺書を書いたんだな。どれどれ……。うん、まだまだだな。ヴイ、生だね。」

嫌なヴイから逃げる事は悪い事じゃない。でも死んだら終幕って書いてるじゃないか。

お父さん、お母さん、お友達との劇から降りるとその分役が足りなくなるんだよ。もし将来苛められたら苛められる役割なんだと思えば良い。恋人と上手く行かなかつたら自分が美しくないからだと思えば良い。お化粧もした事ないだろう？まだ演じきらなきゃならな

いんだ。斜陽が二度と昇らない世界に行くまでね。」

「うーんお父さんの言ってる事難しくてわかんない。」

「分かるようになるまで生きるんだね。」

「あなたありがとう。」

お父さんは冷や汗三斗 脂汗 直治の遺書を読んでおいて良かった
と思ったのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2131s/>

斜陽

2011年10月6日06時09分発行